

**第12回子どもとメディア全国フォーラム  
乳幼児とメディア分科会**  
**タイトル：より良い啓発実践をともに学ぶ**

3/21(土) 11:00~15:00 4時間

「開始年齢を制限し（2歳までは控える）、時間を制限し（1日1時間以内）、良質な内容を選ぶ、そして一緒に視聴・使用する」—日本小児科医会、アメリカ小児科学会をはじめ、世界中の小児科学会やWHO（世界保健機関）は、乳幼児とメディアに関する推奨（提言）を示しています。そして、その内容を裏付けるエビデンスも報告されています（子どもとメディア定期誌 Vol.49~51で一部を紹介）。

しかし現状は、0～1歳からスマホ・タブレットを使わせる、長時間使用させる、家庭内や車の中、外出先でも動画を見せ続けるといった、いわゆる「電子ベビーシッター」「電子おしゃぶり」と呼ばれる使い方が広がり、推奨内容とはかけ離れています。

私たちは、子どもの健やかな育ちのために、どのように啓発を行い、スマホ・タブレットだけに頼らない子育てをどう支援できるか、その効果的な方法を模索する必要があります。

乳幼児とメディア分科会では、まず基本的な知識を確認した上で、さまざまな立場の具体的な実践例を参考にしながら、効果的な啓発の実践方法を学び、共に考える場としたいと考えています。

**(1) 基礎知識の共有**

アメリカ小児科学会・WHO・小児科医会など公的機関の推奨内容の詳細、乳幼児へのメディアの影響と主要なエビデンス、啓発の基本的な考え方について簡潔に紹介します。

**(2) 具体的実践例の発表**

小児科医、保育士、子育て支援者など、さまざまな立場の演者から、子どもの発達段階（妊娠期・乳児期・幼児期）や啓発の場（乳幼児健診、子育てひろば、等々）の視点で、それぞれの実践例を発表してもらいます。

（例：小児科医が乳児期健診で工夫している資料、子育て支援センタースタッフが参加する保護者に向けて行っている取り組みなど）。

**(3) 意見交換と議論**

演者の実践例をもとに、参加者からも意見を出し合い、より良い啓発の方法を考え、ともに学びます。さらに、スマホ・タブレットに頼らない子育て支援のあり方や、子育て支援センターや保育園などにおける豊かな遊びの場づくりについても議論を深めたいと思います。

\*資料を配付します（基礎知識のまとめ、演者の啓発の工夫の方法や資料など）。著作権に配慮しつつ各の実践に役立てていただければ幸いです）

子ども家庭庁 はじめの100か月の育ちビジョンへ

[https://www.cfa.go.jp/policies/kodoo\\_sodachi/](https://www.cfa.go.jp/policies/kodoo_sodachi/)

「アタッチメント（愛着）」と「遊びと体験」、「安心と挑戦の循環」という考え方

以上